

いつもホット、使いやすいから、だから、サーモス『山専ボトル』

「山で使いやすいボトルとは？」
そんなテーマで開発された山専ボトル。
人気の秘密をさぐってみると……。

加戸昭太郎 写真 川原真由美 文 岡田真紀 丸山日佐子 モデル 黒百合ヒュッテ 撮影協力



好みの飲み物を入れていって、分け合うのも楽しい

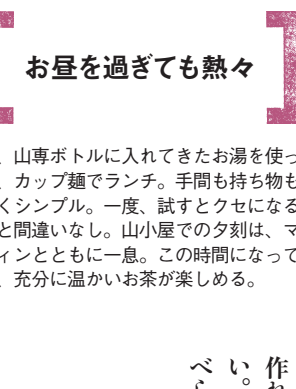
POINT 1

冷めにくいから、お昼は速攻でカップ麺！



ココが冷めない理由

温かさは上部の開口部から逃げていく。だから、山専ボトルの口径は36mmと小さめ。家庭用製氷機の氷がちょうど通る大きさで、夏季の冷たい飲み物にも対応。注ぎ口の形状に、サーモスの確かな金属加工技術がうかがえる。



お昼を過ぎても熱々

朝、山専ボトルに入れてきたお湯を使って、カップ麺でランチ。手間も持ち物もごくシンプル。一度、試すとクセになること間違いなし。山小屋での夕刻は、マフィンとともに一息。この時間になっても、十分に温かいお茶が楽しめる。

「 緒に登った仲間が山専ボトルのお湯でカップ麺を作っている。その手があるんだって。」

山専ボトルを手に入れた理由、使ったポイントとして多くの愛用者があげるのが、冷めにくさ。朝早くに沸かしたお湯が、お昼になっても熱々。夕方でも充分にほつとする温かさだ。

ストローを持っていくのもいいけれど、同行者がパンやおにぎりだけで済ませていると、待たせないようにと気になっってしまう。だから、カップ麺をボトルのお湯でさっと作れる手軽さはかなりうれしい。腹ペこなとき、すぐに食べられるのもいいし、ストロー

「この先のルートは……」。お茶を片手にブリーフィング

今日はなにを持って行こう

その日の気分や体調で、ほしいモノは違ってくる。コーヒー・紅茶は定番。疲れたときは甘い抹茶ラテ、塩分を失った体には味噌汁がうれしい。エスニックから洋風まで、じわっと体が温まるスープもおすすめ。好みのものを揃えておきたい。



POINT 3

3 シーンで使い分ける 2 サイズ



山行スタイルに合わせて容量をチョイス

別売のリングでマイカラーに

山岳会やグループで「みんな持っているから間違えちゃう」という声も多々。そこでおすすめなのが、オプションのリング。ピンク、ブルー、ブラックが各サイズ用意されている。組み合わせ次第で、キュートにも無骨にも簡単カスタマイズ。



山 専ボトルは500mlと800mlの2サイズ。500mlはペットボトルやハイドレーションと組み合わせ、シーンを選ばず活躍するベシシックスタイプ。800mlは雪山での一日の行動に、プラスαの余裕がある容量を想定。カップ麺などでお湯を多めにほしいときや、グループの共同装備として持つときにもおすすめ。

POINT 2

POINT 2 こんなところが山仕様

シンプルなスクリュー栓



ハチミツや砂糖たっぷりのドリンクでベタついても洗いやすい、シンプルなつくりのスクリュー栓。細かなパーツがなく、故障のリスクが低いのも山では大きなアドバンテージ。厚手のシェルグローブを装着していても操作しやすい。



グローブをしたままで

ちょっと大きめのコップは凹凸があって、凸部分の表面にはグリップしやすいテクスチャー。グローブしたままでも開け閉めしやすく、持ちやすい。ボディ上部に装着したシリコン製のリングは滑り止めと転倒時のダメージ軽減を兼ねている。



落としても大丈夫

ボトムに重心があるので、落としても底カバーが衝撃を吸収して、ボディを守ってくれる。軽量化を重視したときは取り外して使うことも可能。また、うっかりなくても別売の底カバーだけを追加購入できるので安心。

グ

ロープをしていて、手が滑って開け閉めしにくい。ボディをつるんと落としそう。登山の装備として使うからこそ感じる、保温ボトルの「もったいなく」なところが山専ボトルだ。

ひとつひとつの動作にこだわって、ボディやコップの形状や付属パーツをとことん吟味。外寸はバックパックへの収まりのよさまで考慮されている。そして、ゴツく見えるけれど、意外と軽量なのだ。

保温ボトルは肌寒い季節の必須装備



2つのサイズと3つのカラー サーモス ステンレスボトル



- FEK-500 価格=5250円
容量=0.5ℓ 口径=36mm
サイズ=直径7×高さ24cm
重量=320g 保温効力=6時間76度以上、24時間49度以上
- FEK-800 価格=6300円
容量=0.8ℓ 口径=36mm
サイズ=直径8×高さ28cm
重量=400g 保温効力=6時間79度以上、24時間57度以上
- カラー=ターコイズブルー、クールグレー、パーガンディー
- ◎サーモス ☎0256-92-6696
http://www.thermos.jp/